

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991500067		
法人名	特定非営利活動法人いかんべ		
事業所名	グループホーム富士見屋		
所在地	栃木県那須烏山市下川井1439番地		
自己評価作成日	令和2年 11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanr1.nsf/aHyokaTop20
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年 12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

往診医の協力のもと、看取りケアの実績を積んでおり力を入れている。ご本人・ご家族様とは時間をかけて終末期について話をしており、疑問や悩みがある際は往診医ではない先生の意見も確認している。時間をかけて話し合いをする中で、富士見屋での看取りを希望する方が多く、ご家族様から感謝の言葉をいただく事が多い。職員だけが関わるのではなく、ご家族様にも終末期に入った利用者様と関わって頂ける体制を作っており、職員・ご家族様が同じ気持ちを共有できるようにしている。コロナの感染予防のため、制限する所もあったが感染予防を徹底して可能な限りご家族様に関わっていただけるような体制を作り、ご家族様に後悔のないような最期を考えている。そういった経験を通して職員は喜びや感動、自信を持つことが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・入居している利用者の状態に合わせ、居室や生活時間の変更を臨機応変に対応している。施設長と職員だけではなく、職員同士のコミュニケーションも良好であり意見や提案を言いやすい体制が構築されている。
 ・看取りケアに力を入れている。往診医や関係機関の協力の下、今までに約20人の看取りケアを実施している。日頃から往診医の協力体制が図られており、看取り希望の家族も多く、看取りの状態での入居も受け入れている。
 ・市役所や地域包括支援センターとは、事業所を開設する前から関係性が構築できており、困難事例の相談を受ける等、信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない コロナのため
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない コロナのため	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人設立時の職員全員で考えた理念であり、とても大切にしている。利用者様の対応を考える際は、理念をもとに考え職員とも話し合いをもつようにしている	現在は、感染症予防のため職員会議等を実施していないが、毎日の引き継ぎ時に施設長と職員で理念に基づいた支援が出来ているかどうかの話し合いが行われ、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達との交流を大切に考えており、職員としての採用も積極的に行っている。地域の方を採用する事で地域の情報を知り、生かし交流をひろげる事が出来ている。	毎年、事業所のお祭りには地域の人を招待していたが、今年は感染症予防のため中止している。現在、地域との交流は制限しているが、地域の方を職員として採用しており地域の情報は得られ、繋がりも継続出来ている。自治会長・民生委員が交替しても、事業所の実情を引き継いでもらえ、地域の一員として生活を送れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と近所の散歩をしており、その際に近所の方と利用者様が話をしたり、職員が施設の様子を伝える事で認知症の方の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様との関りで悩んだり難しい事も伝えるようにしており、相談にのっていただいている。出た意見は取り入れるようにしている。	会議には家族、包括支援センター、市担当者、社会福祉協議会、自治会長、民生委員、地域代表、事業所職員が参加している。今年は感染症予防のため書面開催としている。参加者から意見を貰いまとめたものを会議録として配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターから在宅生活が困難な方や家族関係が悪く、入所が必要な方の相談を受けており、協力関係を築いている。困難事例の相談もしている。	市担当者とは相談しやすい間柄となっており協力関係が構築できている。地域包括支援センターや地元の認知症専門病院から、困難事例の受け入れに関する問い合わせの際は、市担当課に相談し情報共有ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に話し合いを持つようにしている。玄関の施錠はしておらず、一般家庭と同じようにしている。利用者様は自由に外に出る事が出来る体制を作っている	今年は感染症予防のため会議及び研修を実施していないが、日頃のケアを振り返りながら少人数での定期的な話し合いを行っている。玄関の施錠はせず、自由に出入りができる。利用者が外に出て行った時は、職員が付き添う体制が整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について定期的に話し合いを持っている。職員とは話し合いを多くもっており、利用者様との関りの中で感情的になってしまうような時はないか確認している。コロナ対応により自宅に帰ることは制限中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を利用している方がおり、制度の理解や関係者との話し合いを持っている。管理者が中心で関わる事が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族様の不安や疑問に関しては時間をかけて聞いており、不安や疑問が解消するまで何度でも説明や相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの感染予防を徹底した上で電話・手紙・玄関のフリースペースでご家族様との意見交換をする機会を多く持っている。利用者様とは日常的に会話をする時間を多く持っている。意見は必ず取り入れるようにしている。	日頃から家族と意見交換する機会を多く取るように心がけている。そのため、面会を制限した際も、家族からの理解はスムーズに得られている。施設長は家族と話した内容を職員に伝え、家族の思いを職員に伝え、日頃の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が日常的に職員ひとりひとりと会話をする機会を多く持っており、職員から出た意見や提案はすぐに実行するようにしている。	施設長・理事長も現場に入り職員の意見を聞く機会を多く持っている。職員から支援の方法に対する意見や勤務体制等、職員の意見を取り入れ、働きやすい環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入っており、職員の働きぶりを勤務を通して把握するようにしている。一緒に勤務をする事でどんな事にやりがいを持っているかも把握し、活躍の場を提供できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格がとれるような勤務にしている。代表者も勤務に入る事で働きながら指導できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所との合同勉強会を月に一度行っていたが、コロナ感染予防のため今年度は中止している。代表者を通して他事業所の取り組み等職員には伝える機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前より、本人、在宅生活時に利用していたサービス事業所からの情報等細かく聞いており、安心して利用して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前より、ご家族様が困っている事、不安な事、要望等時間をかけて聞いており、ご本人とご家族様の要望が異なる際は職員が間に入る事でどちらもの意見を取り入れた形で支援できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みをされる段階で、本人の状態や家族の話時間をかけて聞いており、その時必要な支援がある場合は、包括や担当ケアマネに連絡をとり、情報を共有している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が職員の相談相手になったりする事もあり、家族のような関係性が出来る施設を目指している。職員同士で話し合う時も家族的な目線で考えられるような話し合いにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様とも家族的な関係を築き、家族目線で話をするようにしている。利用者様、ご家族様の思いを知ること家族の絆を入所後も継続して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に大切にしていた人や場所の把握に努めており、入所後も継続出来るよう施設に面会に来ていただいたりしている。現在はコロナ感染予防のため中止している。	入居する前に関わっていた友人や馴染みの場所を本人・家族に確認している。美容院や化粧品の購入等、入居前の関係性の継続を大切に知人との面会も自由にして。現在は感染症予防のため実施していない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に把握できるように職員は細かな出来事も引継ぎするようにしている。孤立する利用者様がないように食事の席の配置をその時の状態にあわせて変更したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても気軽に相談して頂けるように退所時に何かあった際は連絡を頂けるようにお声掛けしている。また、他のサービスを使う場合は本人のこだわりなど細かく説明するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の暮らしの希望、意向は職員が常に聞くようにしており、取り入れている。聞き取りが難しい利用者様に関しては、ご家族様の意見を取り入れたり、ご本人の表情等で確認するようにしている。	幅広い年代の職員が勤務しており、利用者自身が相談する内容によって職員を選び相談している。意向を伝えることが難しい利用者は表情や仕草から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでのサービス利用の経過等の把握のため、ご家族様、サービス利用の際に関わっていた事業所等にお話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の現状を把握出来るように、職員同士のミーティングを多くもっており、状態にあわせた一日の過ごし方を考えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活を支えて下さっている関係者の方、すべての方の意見を聞いた上で介護計画を作成している。	毎日の個別記録を基に、家族、本人、医師、職員の意見を反映し介護計画を作成している。個別記録には詳細なやり取りも記入されており、モニタリングも兼ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきを細かく個別記録に記入しており、情報の共有や介護計画を見直す際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設のきまりは作っておらず、その時利用されている利用者様、ご家族様の希望を取り入れて柔軟な対応が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用する事が出来ている。入所されても施設内だけの生活にならないように、利用者様にも地域との付き合いをしていただいている。コロナ感染予防対策のため、現在接触等は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望の病院受診を継続しており、複数の医療機関と事業所は連携が取れている。	本人・家族の希望でかかりつけ医を継続でき、受診時は事業所に対応している。往診医との関係が良好であり気軽に相談ができています。また、協力病院の看護師や、かかりつけ薬剤師とも相談しやすく適切な医療を受けられるように努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と職場内の看護師の勤務内容を同じにしており、連携がとりやすいようにしている。協力病院の看護師とも相談しあえる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者とは情報交換や相談をしており、入院した際も認知症の悪化等も考え、施設で対応できる場合は早期退院等の話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に関して、ご家族様の思いを確認している。利用者様とは日常生活を通して気持ちを確認するようにしている。その上で事業所がどんな関りが出来るかもお話するようにしている。	契約時、本人・家族に終末期について確認している。状態変化時には、再度、本人・家族の思いを確認している。看取りを希望される方には事業所ができることを説明し訪問医等と協力しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を職員全員が受けられるようにしている。今まで事業所で起きた急変や事故発生時の対応等、先輩職員から後輩に伝える機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。付き合いのある地域の方達は、何かあったら駆けつけると言って下さっており協力体制が出来ている。	各居室からベランダに出られる間取りとなっており、火災時は居室のベランダからの避難経路が確保されている。地域の方からの協力も得られているが、今年は感染症予防のため訓練を実施できていない。	今後は、地域の方も交えて避難訓練を実施することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念のひとつに、一人ひとりの個性を大切にすることというものが、利用者様の人格にあわせた関わり方をしている。	理念の1つに「個性を大切にします」を掲げている。精神疾患を患っている利用者も多く、一人ひとりに応じた対応をしている。ベテラン職員が新人職員にどのような対応をすべきなのか伝え、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で職員は利用者様の思いや希望を必ず確認するようにしており、自己決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で業務は作っておらず、一人ひとりのペースやその日の体調にあわせた生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と職員が洋服や化粧品を買いに行ける体制を作っている。なじみの美容室を継続して利用できるようにもしているが、コロナ感染予防対策として現在は制限している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には食べたいものはないか、日常の会話の中で聞いており、食べたい物の希望があった場合は取り入れている。無理のない範囲で食事の準備や片づけを利用者様と一緒にしている。	職員が利用者の希望も取入れながら献立を1週間単位で作成し調理している。利用者の体重の増減を目安に食事量を調整している。野菜を切ったりテーブル拭き等、利用者と一緒にしている。食材の買い出しに利用者と一緒にしていたが、現在は感染症予防のため行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表があり、利用者様の摂取量を把握している。摂取量が少ない方には本人の食べたい物を個別に用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。利用者様の状態にあわせて職員は介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しており、トイレでの排泄を行っている。本人より訴えがない利用者様はチェック表でパターンを把握し、職員が声かけ、誘導している。	排泄チェック表を活用してトイレでの排泄を支援している。夜間時は利用者の希望に添い、ポータブルトイレの設置やトイレ誘導、睡眠の優先等、其々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態にあわせた便秘対策に取り組んでいる。改善が、難しい方は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めておらず、利用者様の体調やその日の気分等確認しながら、入浴していただいている。	入浴は利用者の希望を基に、1日2～3人、毎日実施している。入浴を拒否する方には、毎日言葉かけて入浴できるように支援している。重度化した場合でも職員2人で対応する等、利用者に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は作っておらず、今までの生活習慣で遅く眠っていた方に対しては、夜間職員が話し相手になったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬剤師、居宅療養管理指導を導入している。薬剤師に薬の詳しい説明を受けられる体制を作っており、薬の目的、副作用等職員が理解できるようにしており、利用者様に安心して服薬していただけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好きな事や楽しみを職員は把握しており、楽しみを持って生活して頂けるように支援しているが、コロナ感染予防のため現在は制限をしている事が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため、現在は外出の制限をしている。	病院受診の帰りに外食したり、紅葉狩りにドライブに出かけている。また、天気の良い日は近隣を散歩している。以前は毎日のように外出していたが、今年は感染予防のため自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から希望があった場合は、ご自分でお財布を持っていただき使って頂けるようにしている。能力に応じ、ご家族様とも相談をした上で決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは自由にいただいている。携帯を所有している方もおり、トラブルが起きた際はご家族と相談し対策をたてている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの照明を暗めにしており、落ち着いた雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。古民家風の作りにする事で、自宅と同じようにくつろいで過ごしていただけるようにしている。	利用者の特性に応じて、共有スペースの照明を落としたり、座席の位置を変える等、その都度、環境を整えている。置コーナーや少人数で過ごせる場所等、自由に寛げる空間を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に少人数で集まれるスペースを何ヶ所か作り、好きな所で過ごしていただけるような居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使いなれた物を持ってきていただいております。居室は居心地の良い場所になっている。	ベッドと小さな収納家具は備え付けてあるが、利用者其々が自宅より馴染みの物を持ってきて心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えた上で家具の配置をしている。危険な物は扉の中に入ってしまうようにしており、利用者様が使いたい時は職員にすぐに言えるような体制にしている。		